






















































◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<10月> 業界の景況(前月比DI値)

景況感は、気温が落ち着いたことにより来客数増加したものの、物価高による節約志向により、客単価が減少しているとの声が聞かれた。また人手不足対応のための業務改善や、最低賃金アップに伴い、従業員を削減せざるを得なかったとの業界もあった。

30以上	10～30未満	10未満 ～△10	△10超～ △30未満	△30以下
				

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

業種		業界の景況 (前月比DI値)			
		令和5年7月	令和5年8月	令和5年9月	令和5年10月
製造業	食料品製造業	 △ 33	 20	 △ 25	 0
	木材・木製品製造業	 △ 100	 △ 100	 0	 0
	印刷・出版 同関連製造業	 0	 0	 0	 0
	窯業・土石製品 同製造業	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	鉄鋼・金属 同製造業	 0	 0	 0	 0
非製造業	卸売業	 △ 20	 0	 △ 20	 0
	小売業	 △ 50	 △ 33	 △ 33	 △ 50
	商店街	 △ 33	 △ 33	 △ 33	 △ 33
	サービス業	 14	 14	 14	 14
	建設業	 △ 20	 △ 17	 △ 17	 △ 17
	運輸業	 0	 0	 △ 33	 △ 33
	その他	 0	 0	 0	 0

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
味噌醤油業界	<p>暑い日差しもなくなり過しやすい季節となった。コロナ感染も下火になりつつあり、この時期は業界のイベントも盛り沢山となる。</p> <p>今月は製品技術を競う味噌と醤油の鑑評会があった。全国でもトップクラスの歴史があり70回目大会となる。生きている菌によって完成される味噌と醤油は簡単に出来るものではない。醗酵過程を常に見ながら管理することが非常に難しく、お客様が喜んで食べる顔を浮かべながら日々品質を高める努力をしている職人の技の見せどころだ。</p> <p>今年は暑い日が続き難しかったが、努力と忍耐の甲斐があり美味しい味噌、醤油が出来上がった。お客様に食べてもらえることを願っている。</p>
パン・菓子製造業	<p>10月14日に行われた「北海道・東北ブロック会議」(北海道と東北6県の菓子組合が参加)では、全国展開しているシャトレゼの影響を懸念している、という意見が多数聞かれた。</p>
水産練製品業界	<p>相変わらず高騰している電気代を安くしてもらいたい。ガソリンの暫定税25.1円も外してもらいたい。石油卸会社へ補助金を支給するよりよっぽど良いと考えている。</p> <p>消費税は社会保障費に使っていると説明しているが、他に流用しているのであれば、税率を5%に戻してもらいたい。</p> <p>人が集まらず思うように仕事ができない。</p>
酒造業界	<p>例年10月は9月より出荷数量が増加する傾向にある。組合員間で多少のばらつきはあるが、前月を上回るとともに、前年同月より増加した組合員が多く見受けられる。</p> <p>燃料費や包装資材等の高騰が継続していることに加え、本年は主原料である原料米の価格も高騰しており、更なる収益状況の悪化に繋がる可能性がある。これに加え、今夏の猛暑の影響により全体として米が固いことから、酒質への影響が懸念される。</p>
製麺業界	<p>極端な安売りは少なくなった。</p>
木材業界	<p>9月の新設住宅着工数は1,347戸で前月比26%減、前年同月比は21%減と大きく減少している。上半期累計を前年同期でみると、住宅着工数を牽引していた分譲住宅の鈍化が全体の着工数減少に影響していると思われる。</p> <p>木質製材品の需要先となる持家の着工数は、上半期累計では前年同期比10%減にとどまっているものの、現行の資材高騰や住宅ローン金利の上昇といったマイナス要因によっては今後大きく減少することも考えられる。</p> <p>原木価格は品薄感から上向き加減で、前月よりm³あたり1千円ほど高く、この傾向は今後も続くと見込んでいる。また、広葉樹材も需要期にあたることから、良材は高単価での引き合いがある。</p>
印刷業界	<p>印刷・情報用紙の国内出荷が前年同期比8.5%減少し、13ヶ月連続のマイナスとなっている。要因は一つに絞れないが、デジタル化などによる紙離れが進んでいると思われる。Z世代の新聞や書籍離れが今後も進んでいくこと、新聞発行部数減少による商業チラシの減退、</p>

	<p>教育現場における教科書のデジタル化など、紙離れを加速させる現象に、各事業所が生き残りをかけていくには、デジタル化への対応、得意分野への特化、生産協調などによる業界全体での生産性向上、業界外への事業領域の拡大など、各社の戦略設計が求められる。</p>
生コンクリート業界	<p>10月の生コン出荷量は約92.4千³m（前月比14.2%増）と、2ヶ月連続で前月より増加したが、前年同月比では92.5%と、依然として前年度を下回っている。</p> <p>地域では、仙台地区以外が対前年同月比で概ね8割以下と低迷し、販売価格は、原材料費等の高騰による値上げが地区ごとのペースで段階的に進んでいるものの、収益改善には結びついていない。</p>
コンクリート製品業界	<p>コンクリート製品の需要が低迷しており、出荷量は前年同月比で2割減少。4～9月の出荷量も前年同期比で87%と減少している。在庫量が前年比で1割程度多くなっているが、10月以降の出荷量に期待したい。（※コンクリート製品業界は、とりまとめ時期の関係から1ヶ月遅れの報告です）</p>
砕石業界	<p>需要が細くなった状況で、生産コスト増加分を価格に転嫁するのは困難であり、厳しい経営を余儀なくされている。</p>
機械金属業界 A	<p>経済活動は緩やかな回復傾向が続いていると見ているが、景気の先行き懸念に伴い発注が手控えられている等の影響によるものか、製造業の景況感は悪化傾向にある。</p>
機械金属業界 B	<p>全体的に設備投資は減少傾向で売上高も低迷しており、原材料等の値上げや人件費高騰による原価圧迫が続いている。</p>
各種卸売業界	<p>建材卸は、製品価格に加え、配送運賃も値上げしている。</p> <p>衣料・靴卸は、販売価格高騰により10月の購買意欲が大きく減退。今後も更に後退するものと思われる。</p>
再生資源業界	<p>10月の国内鉄スクラップ市況はほぼ横ばい推移となり、月を通して大きな動きはなかった。日本の主要な輸出先である韓国やベトナム等のアジア諸国では、不動産市場の低迷から鉄鋼需要が落ちており、輸出価格も若干弱含みである。しかし、国内メーカーは必要量確保のため価格を据え置き、入荷を優先させている状態で、国内外ともに需要低迷が続くものの、スクラップ供給の伸び悩みが価格を下支えした。</p> <p>古紙はダンボール原紙の輸出が低迷し、価格、需要とも振るわない状態が顕著となっている。</p>
繊維卸売業界	<p>朝晩の冷え込みが進み、厚手の羽織物などが動いてきた。販売員や従業員の確保が難しく、売り場を縮小するなど人的影響が深刻になりつつある。</p>
ゴム製品卸売業界	<p>当業界の需要業種を大きく分けると、1次産業（農業関連・水産関連）の産業系は食品飲料関連、工業系は車輛・機械・部品製造業・建築土木業になるが、10月期は夏の猛暑の影響で農業水産業は低迷、食品飲料関係は横ばい、自動車関連は上向きだった。しかし各分野とも原材料・燃料の高騰で、各ユーザーのゴム・プラスチック等のベルト・ホース・資材等の消耗品の替え控えが感じられる。</p>

	<p>購買のコストカットの影響が徐々に出ており、受注回数は変わらないが購入数減少があるため、経費は変わらず売り上げは伸びないといった状況が続いている。</p>
鮮魚卸売業界	<p>10月28、29日に、年に1回の「どっとまつり」が開催された。2日間で15,000人近い来場者数となり、昨年よりも3割増と賑わった。</p> <p>行楽シーズンに突入し、観光客の来場も増えている。バスの来場は依然として右肩下がりだが、少人数の自家用車での来場は増えている。</p> <p>一方で物価高による買い控えなのか客単価が下がっているという声も聞かれる。海水温が例年より高いことで、一部の商材で入荷の遅れ、不漁なども出ている。</p>
鮮魚小売業界	<p>生カキの季節になったが、1ヵ月遅れとなっている。三陸は海水温が高く漁獲量は最低だった。近海魚も不調で、生サンマも相変わらず不漁が続いている。秋鮭は、北海道は前年比70～80%であった。ナメタ、生たらは若干増えているが、売上が作れない状態が続いている。</p>
青果小売業界	<p>気温も落ち着き、種の播き直しが一斉に始まったことで徐々に秋冬野菜が増えてきた。高値が続いていた長ねぎ・トマトなども回復しており、相場は下げ基調だが全体的にまだまだ高い状況だ。</p> <p>9月からの単価高騰が2ヶ月も続いているため、売掛納品を主としている組合員の一部は運転資金が足りない状況が見受けられる。組合としてもリスク管理に最大限の注意を払いたい。</p>
食肉小売業界	<p>流通卸等の事業者は先月と主だった変動はない様子であるが、畜産農家と意見交換する機会があった。エサと輸入している干し草等の値上がりにどうする事もできないという意見や、今後も続くと予測される後継者不足と高齢化農家が多く、生産と供給のバランスが保たれるか心配だとの意見が聞かれた。</p>
家電小売業界	<p>10月に入り気温が下がり、朝晩涼しい日が増えてきた。暖房機器や加湿器の動きも徐々に出ている。石油値上がりの影響で寒冷地用エアコン等の購入が増えている。また、マスクを外す機会が増えてきたことで、美容家電などにも注目が集まっている。</p>
石油小売業界	<p>原油価格は、中東情勢の不安定な状況を背景に推移しているものの、政府の補助金支給により小売販売価格の上昇は抑えられている。このような水準が続く見込みだが、国の政策も不透明な部分があり、今後の状況を注視していく必要がある。</p>
花卉小売業界	<p>最低賃金の底上げに伴い、個人事業者はかなり苦しい思いをしている。値上げに踏み切るにも、消費者は10円の値上げすら敏感に反応し、従業員のリストラ以外の手段が見つからない。</p> <p>10月始め時点での県内生花店の従業員募集は、インターネット上での募集は0～4件である。関東以北で首都圏を除くと各県で0～4件が募集している。業界全体の悲鳴が聞こえるように次々と募集を打ち切っている。</p>

	<p>今後の最低賃金の上昇やインボイス制度が徹底されることで、個人事業者は大手に握りつぶされるのではないかと懸念の中、既存従業員のみでやりくりする必要が出ている。</p>
商店街	<p>(仙台地区 A 商店街) インボイス制度や IT 化への対応に追われている。</p> <p>(仙台地区 B 商店街) 新型コロナが終息し、秋のイベント開催要請が相次いだため、土日中心に賑わいが戻ってきた。しかし、その賑わいも当日だけの一過性のものであり、平日の人出が増える企画を模索している。</p> <p>(大崎地区 A 商店街) 恒例の古川秋祭りが開催されたが、生憎の雨に見舞われ沿道に人を呼ぶ大名行列が中止となった事もあり、景況は今イチだった。 また、大崎市独自の市民向け 3 割増し電子商品券「パタ PAY」が発行され 10 月 2 日より使われているが、旧来の商店街での活用は芳しくない。</p>
クリーニング業界	<p>ホームクリーニングは前年並みに推移するのがやっとなりで、全体的に悪い。 一方、リネンはホテル関係が回復傾向で、病院等は変動がなく推移している。</p>
自動車整備業界	<p>整備業界の基盤となる車検台数に大きな変化は見られない。昨年に比べタイヤの仕入価格が上昇しているため、タイヤ交換の時期を迎えユーザーの負担増が見込まれる。整備工場への入庫に影響しなければと思う。</p>
廃棄物処理業界	<p>汚泥（有機）や残渣の量は、食品ロスを防ぐ取り組みや自主工場内に脱水機の取り付けが増えているため減少傾向にある。取り組み自体はとてすばらしいが、組合としては痛しかゆしである。。 また、自治体の発注量も減少している。各自治体の財政が厳しいこともあり、現状では人件費や燃料費の高騰を補えない。</p>
警備業業界	<p>今年の 10 月の気候は例年に比べ暖かな日が多かった。各種イベントもコロナ禍後ということもあり盛大に開催され、イベント警備を実施する警備員の需要も増加した。 需要増加の反面、警備員の高齢化に歯止めがかからず、若手の警備員の養成が急務となっている。そのためにも警備員の処遇改善、賃金アップが必要不可欠である。岸田総理のリーダーシップによる、物価上昇を上回る賃金のアップを実現できるような有効な政策に期待したい。</p>
湾岸旅客業界	<p>台風の影響もなく、雨の日も少ない過ごしやすき日が多かったことから、前月に続き売上、旅客数は、前月比、前年同月比ともに増加した。 コロナの影響はほぼなく、人出は順調に増えコロナ禍前に匹敵してきた。組合ではインフルエンザ感染が増加傾向にあるため感染症対策は継続している。</p>
ホテル・旅館業界	<p>人手不足の影響が各部署に表れており、これまでの手法の延長線上</p>

	<p>では対応しきれず、解決に向けた取り組みが急務となっている。</p>
シーリング業界	<p>改修リニューアル工事や修繕工事は変わらず増加傾向にあり、先々の業務量の見通しもできている。業務量増加への対応を図っていきたいところだが、人員確保はコスト高も相まって非常に厳しい。</p> <p>各社の経営状況は、取引価格の改善が見えているが、人員、エネルギーコスト高に原材料値上げの影響も加わり、厳しい状況が続いている。</p> <p>業務量は多く、受注金額も上向いている。しかし、課題解決に企業努力が求められるが、組合を上げて取り組む必要もある。先々のエネルギーコスト高を織り込んだ適正価格や適正工期の交渉が非常に重要であることに変わりはない。</p> <p>また、当組合として、いち早い情報発信やどのような改善策が必要なのか知恵を出し合い、準備、実行、検証し対処していきたい。</p>
建設業界	<p>時間外労働の罰則付き上限規制の適用を令和6年度に控え、働き方や賃金、人材確保等、その対応に大きな課題を抱えている。対応するにも民間を含む発注者の理解が不可欠であり、適正な工期や発注、施工、納期の平準化により、安定的な事業量を通年で行うことが望まれる。</p> <p>また、県内建設投資額は東日本大震災前の厳しい時代よりも減少している実態にあり、今後の災害時対応や社会インフラの維持管理、除融雪作業などにも支障を来すのではないかと危機感を抱いている。</p>
硝子業界	<p>例年であれば、年末から年度末の工事見積もり依頼が来る時期だが、今年は全くなく、先が見えない不安な状況となっている。</p>
板金業界	<p>一般住宅施工件数は今イチだが、リフォーム工事にて対応している。大型物件は堅調であった。</p>
タクシー業界	<p>気候の安定及び物価高騰も影響してか、繁華街での需要も低調で、前月より輸送人員及び輸送収入ともに低調であった。</p> <p>LPG 価格は前月より8%上昇し、夏場以降値上がり傾向が続いている。</p>
軽自動車運送業	<p>大手運送会社の軽貨物の委託中止・停止の影響が大きく、個人、グループともに困惑している状態である。</p> <p>一度に12台カットされるグループもある。今後の状況に注目している。</p>
倉庫業界	<p>前月比、前年同月比ともに、入出庫量及び在庫量が増加したが、売上高（収入）は減少している。前月比の品目別では、入出庫量ともに増加したのは、窯業品、紙・パルプ、食料工業品、雑工業品及び雑品である。</p> <p>前年同月比の品目別では、入出庫量ともに増加したのは農産品、金属製品・機械、窯業品、食料工業品、雑工業品である。他の品目の在庫量は増加しているが、出庫量は減少し、在庫量が増加傾向にある。</p>